

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 27 日現在

機関番号：24402

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520896

研究課題名(和文) ボルネオにおける流域社会の形成と変化 民族間関係の空間論

研究課題名(英文) Historical changes in basin society in Borneo: spatial features of ethnic relations

## 研究代表者

祖田 亮次 (Soda, Ryoji)

大阪市立大学・大学院文学研究科・准教授

研究者番号：30325138

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：ボルネオの内陸諸民族の集落の多くは、河川沿いに位置している。主要河川の流域を上流から下流まで見てみると、複数の民族が混在していることが分かる。そうした流域という空間単位が、「親族」や「民族」という紐帯とは異なる社会的・地域的まとまりを形成する場となってきた。その一方で、流域を越える社会的ネットワークも形成されてきた。流域という限定された空間内においては、異民族間をつなぐ地域社会が形成されてきた一方で、流域を越える広域の社会的ネットワークは、民族・親族の紐帯に強く依存しており、ボルネオ内陸における社会関係は、その血縁的な遠近と空間的な伸縮が反比例する傾向にある。

研究成果の概要(英文)：Most of indigenous villages in inland Borneo are located along major rivers, where people with different ethnic identities are intermingled. The meso-scale spatial unit called "basin society" has been an arena for various family/ethnic groups to build a kind of region-based (riverine) community. On the other hand, we could find that some villages at a great distance have maintained social networks through their frequent move between different river systems over the mountain. Within a river system local-based community beyond ethnic/language differences, whereas trans-basin social networks are strongly dependent on kinship/ethnic relations. In order to understand the social composition in Borneo, it is necessary to examine both ethnic and regional communities in detail.

研究分野：地理学

キーワード：流域社会 トワーク 民族間関係 マレーシア サラワク マイグレーション・ヒストリー 分水嶺 流域間ネット

### 1. 研究開始当初の背景

申請者はこれまで、マレーシア・サラワク州（ボルネオ島）で継続的に調査を行い、特にイバンやプナンといった民族集団に注目しつつ、その移動性を政治経済的な観点から考察してきた。しかし、特定の民族集団を扱うことは、かならずしもサラワクあるいはボルネオの諸社会の包括的把握につながらないという実感も持つようになった。

ボルネオにおける従来の研究は民族集団ごとの調査に限定されることが多く、民族間関係に関する実質的な研究や、地域社会という概念および実態の検討は限定的で、サラワクあるいはボルネオの諸コミュニティに関しての、一般性・普遍性を意識した研究は皆無に等しい。このような民族単位に分断された研究状況を打開するには、地域的なユニットに注目した研究が必要である。

本研究では、流域を単位とした社会構成のあり方を描出する方法を提示することで、ボルネオの社会、ひいては東単アジアの社会を理解するためのひとつの視点を提供できると考える。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、河川環境に強く依存したボルネオ（マレーシア・サラワク州）における諸社会を「流域社会」と規定し、メソスケールでの地域社会を描出することにある。これは、従来のボルネオ研究に欠落していた空間的概念を、主要な分析対象ユニットとして設定することで、各民族ごとの研究に分断されてきた状況を打開し、より包括的かつ実態に近い形で社会変容を捉えるための方法論的検討である。

また、流域「内」における社会関係史を描き出すだけでなく、流域と流域を結び付ける人々のネットワーク形成のあり方を、マイグレーション・ヒストリーの観点から考察する。このように、特定流域内における他民族との関係構築と、流域をまたいでつながり合う同一民族間のネットワーク維持という、異なるベクトルの社会関係を比較することで、「間」流域社会を捉える方法を提示する。

### 3. 研究の方法

本研究では、ボルネオ（マレーシア・サラワク州）において、代表的なバリエーションを示していると思われるいくつかの主要河川を対象に、そこに成立してきた「流域社会」を事例として、主に歴史資料を利用しながら社会変化を明らかにすると同時に、各流域内の民族間関係の現状把握・解釈を目的とした現地調査を実施する。それによって、植民地化以降の流域社会の形成・変容プロセスの諸類型を提示する。

さらに、これらの異なる流域社会をまたいで移動するアクターの存在にも注目し、そのマイグレーション・ヒストリーを聞き取り調査によって収集することで、「間」流域社会

ネットワークの実態をも明らかにする。

### 4. 研究成果

ボルネオの内陸諸民族の集落の多くは、河川沿いに位置している。主要河川の流域を上流から下流まで見てみると、複数の民族が混在していることが分かる。そうした流域という空間単位が、「親族」や「民族」という紐帯とは異なる社会的なまとまりを形成する場となってきた。このような「流域」単位の調査研究の必要性は指摘されてきたが、これまであまり行われていなかった。本研究では、Kemena 川ほかのいくつかの河川において現地調査を行うと同時に、歴史資料を渉猟することによって、これらの点を実証的に検討した。その結果、以下のようなことが明らかになった。

- (1) 流域内の異なる民族間・集落間の間では、古くから交易を中心とする交流・紐帯が形成されてきた。そこには、林産物を採集する狩猟採集民、林産物の採集とその仲買の両方に携わる焼畑農耕民、狩猟採集民や焼畑民から林産物を購入するマレー人、ブルネイ人、華人など、多様なアクターが存在してきた。
- (2) 異なる民族間をつなぐアイテムとして、新林産物の交易以外に、土地（あるいは土地占有の規模と形態）も挙げられる。流域における土地占有権は、各民族・集落の先住性と深く関係する。また、そのことが、民族間の関係性を一定程度規定しうる。それらが対立・戦乱を引き起こす場合もあれば、有力グループへの参加（婚姻・養子縁組・合流・土地貸借等）を通じて緩やかな統合・融合の方向に進む場合もある。
- (3) 1980年代以降の木材伐採の進展や近年のアブラヤシ・プランテーションの拡大といった外部要因に、流域住民が対応することにより、流域社会の在り方も大きく変容してきた。また、政治的色合いの濃い大規模開発は、狩猟民の反対運動に対して敏感に反応するため、人々の民族アイデンティティも対政府・対企業によって戦略的に変更・選択されることもある。民族の変容性・可逆性に関する現代的な事例とみなすことが可能である。
- (4) 一部の流域社会は、アブラヤシ・プランテーションの拡大に伴い、陸域へとシフトしつつあるが、それらは必ずしも河川沿いの居住を放棄したわけではなく、河川沿いのロングハウス居住（焼畑陸稲栽培）農道沿いの出作り小屋居住（アブラヤシ栽培）都市居住（賃金労働）を組み合わせ、多重拠点を常に動きながら、行動域・居住域を拡大する方向にある。これを流域社会の崩壊過程とみなすべきか、流域社会の新たな展開・再編とみなすべきかは、さらなる調査を要する。
- (5) 流域社会の歴史的プロセスを明らかにす

ることは重要ではあるが、それとは別に流域間の社会的ネットワーク形成にも関心を向ける必要がある。これまで重視されてこなかったが、河川最上流域においては、別水系とつながる尾根越え徒歩ルートがいくつも存在している。異なる推計を結びつけるこれらのコネクティング・ポイントの存在は、内陸先住民の広範囲の移動を可能にしてきた。歴史資料の中にも、これらの尾根越えのコネクティング・ポイントが記録されており、また、現地での聞き取り調査によっても、広域的な社会的ネットワーク形成に重要な意味を持つことが裏付けられた。

- (6) 流域内の舟運移動、流域間の尾根越え移動について、地形的・地質的条件についても考察を加えた。サガン・泥岩を中心に構成されており、河川の浸食作用が弱く、河川計上が長期的に安定している。また、造山帯に位置しつつも、豊富な降水量と高い気温による微生物の活発な運動が、土壌の侵食・風化を促し、緩やかな山地地形となだらかな河床勾配を形成している。これらの地形的背景が舟運と陸路移動の両方を容易にしてきた。
- (7) 流域という限定された空間内においては、異民族間をつなぐ地域社会が形成されてきた一方で、流域を越える広域の社会的ネットワークは、民族・親族の紐帯に強く依存しており、ボルネオ内陸における社会関係は、その血縁的な遠近と空間的な伸縮が反比例する傾向にある。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計10件)

Soda, R., Kato, Y. and Hon, J. 2015. The diversity of small-scale oil palm cultivation in Sarawak, Malaysia. *The Geographical Journal*. (査読有)

DOI: 10.1111/geoj.12152

祖田亮次 2015. 人文地理学における災害研究の動向. *地理学論集* 90(2): 18-31. (査読有)

Soda, R. 2014. Approaches to rethinking rural-urban migration in Southeast Asia: the case of the Iban in Sarawak, Malaysia. In Husa, K., Trupp, A. and Wohlschlägl, H. eds. *Southeast Asian mobility transitions: issues and trends in migration and Tourism*. Vienna: Department of Geography and Regional Research, University of Vienna, 100-121. (査読無)

祖田亮次 2014. ボルネオ内陸社会の流域「間」ネットワーク. *マレーシア研究* 3: 101. (査読無)

祖田亮次・竹内やよい・石川登 2013. ジュラロン川流域社会の共有林 プラオとは何か. *熱帯バイオマス社会* 13: 1-6. (査読無)

祖田亮次・石川登 2013. 「狩猟採集民」と森林の商品化—ボルネオ北部プナンの戦略的資源利用. 横山智編『資源と生業の地理学』, 137-164, 海青社. (査読無)

祖田亮次・目代邦康 2013. 了解可能な物語を作る—河川災害と付き合うために. 市川昌弘・祖田亮次・内藤大輔編『ボルネオの里の環境学—変貌する熱帯林と先住民の知』, 55-93, 昭和堂. (査読無)

市川昌弘・祖田亮次 2013. ボルネオの里と先住民の知. 市川昌弘・祖田亮次・内藤大輔編『ボルネオの里の環境学—変貌する熱帯林と先住民の知』, 1-24, 昭和堂. (査読無)

祖田亮次・ランゴブ, J.・奥野克己・甲山治・柳原秀年・石川登 2012. Inter-riverine society論の構築に向けて—スアイ-ジュラロン間エクスペディション. *熱帯バイオマス社会* 10: 1-6. (査読無)

加藤裕美・祖田亮次 2012. マレーシア・サラワク州における小農アブラヤシ栽培の動向. *地理学論集* 87(2): 26-35. (査読有)

[学会発表](計15件)

Soda, R. 2016. Oil palm smallholding and mosaic-landscapes in Sarawak, Malaysia. UMS-TUFS Exchange Lecture on Culture and Society of Asia and Africa. Universiti Malaysia Sabah, Kota Kinabalu, Malaysia. (March 21, 2016)

Takeuchi, Y., Soda, R. and Diway B. 2015. Conservation values of culturally reserved forests managed by indigenous communities in Borneo. 52nd Annual Meeting of the Association for Tropical Biology and Conservation. Hawaii Convention Center, Honolulu, USA. (July 12-16, 2015)

祖田亮次・石川登 2015. ボルネオ北部の流域社会. 第25回日本熱帯生態学会(学会連携セッション『熱帯の水系を遡る旅—沿岸から高地までの環境と暮らし』). 京都大学, 京都府京都市. (2015年6月19~21日)

竹内やよい・祖田亮次・鮫島弘光・ビビアン=ディワイ 2015. マレーシア・サラワク州の地域社会が主有する保存林プラウの分布パターンと開発の影響. 第25回日本熱帯生態学会. 京都大学, 京都府京都市. (2015年6月19~21日)

Sakai, S., Choy, Y. K., Koizumi, M., Kishimoto-Yamada, K., Takano, T. K., Ichikawa, M., Samejima, H., Kato, Y., Soda, R., Ushio, M., Saizen, I., Nakashizuka, T. and Itioka, T. 2015. Variation in the use of ecosystem services by local people in Borneo: Social and ecological factors. Japan Geoscience Union Meeting 2015. Makuhari Messe, Chiba, Japan. (May 24-28, 2015)

酒井章子・Choy Yee Keong・小泉都・岸本圭子・高野(竹中)宏平・市川昌広・鮫島弘光・加藤裕美・祖田亮次・潮雅之・西前出・中静透・市岡孝朗 2015. 何が生態系サービスの利用を左右するのか?—マレーシア・サラワク州での大規模聞き取り調査から 第62回日本生態学会企画集会『ボルネオの変容しつつあるランドスケープの中で—生物多様性・生態系サービスの現在』, 鹿児島大学, 鹿児島県鹿児島市.(2015年3月18~22日)

Soda, R., Kato, Y. and Hon, J. 2014. The latest trends in small-scale oil palm farming in Sarawak, Malaysia. International Seminar of “Human Nature Interactions of the Riverine Societies in Sarawak: A Transdisciplinary Approach.” Universiti Malaysia Sarawak. Kuching, Malaysia. (December 4, 2014)

Takeuchi, Y., Soda, R., and Diway, B. 2014. Biodiversity of remnant forests in Jelalong, Bintulu. International Seminar of “Human Nature Interactions of the Riverine Societies in Sarawak: A Transdisciplinary Approach.” Universiti Malaysia Sarawak. Kuching, Malaysia. (December 4, 2014)

Soda, R. and Kato, Y. 2014. Thirty years of forest development and the response of indigenous people in Sarawak, Malaysia. UZH University Research Priority Program “Global Change and Biodiversity.” University of Zurich, Zurich, Switzerland. (October 20, 2014)

Sakai, S., Keong, C. Y., Koizumi, M., Kishimoto-Yamada, K., Ichikawa, M., Kato, Y., Takano, T., Kohei, Itioka, T., Soda, R., Samejima, H., Saizen, I., and Nakashizuka, T. 2014. Changes in utilization of ecosystem services by local people: cause and consequences. 2014 Global Land Project Open Science Meeting. Humboldt University, Berlin, Germany. (March 19-21, 2014)

Soda, R. 2013. The trends in forest development and adaptability of

indigenous communities in Sarawak, Malaysia. International Seminar on “Current status and challenges of sustainable forest management in Borneo: views from governments, private sectors, NGOs, and local communities.” Kyoto University, Kyoto, Japan. (December 9-10, 2013)

Soda, R. and Kato, Y. 2012. Impacts of oil palm smallholdings on rural-urban household economy: a case in Bintulu, Sarawak. International Seminar on “The Last Malaysian Oil Palm Frontier: Oil Palm Smallholders and the Emerging Socio-economic Landscape of Rural Sarawak.” Universiti Malaysia Sarawak. Kuching, Malaysia. (December. 5, 2012)

目代邦康・渡壁卓磨・祖田亮次・池田宏・柚洞一央 2012. マレーシア, ラジャン川における砂利取りと河岸侵食. 日本地理学会秋季学術大会. 神戸大学. 兵庫県神戸市.(2012年10月6~9日)

Soda, R. and Kato, Y. 2012. Potentiality of oil palm small holdings in rural communities in Sarawak, Malaysia. International Seminar on “Human-Nature Interactions of the Riverine Societies in Sarawak: A Transdisciplinary Approach.” Harbourview Hotel, Kuching, Malaysia. (June 29, 2012)

Kato, Y. and Soda, R. 2012. Socio-economic impacts of oil palm industry on rural communities in Sarawak, Malaysia. Borneo Research Council Conference. University of Brunei Darussalam. Bandar Sri Begawan, Brunei. (June 26, 2012)

〔図書〕(計1件)

市川昌弘・祖田亮次・内藤大輔編 2013. 『ボルネオの里の環境学 変貌する熱帯林と先住民の知』昭和堂.

〔その他〕

ホームページ等

[http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/geo/ja/staff\\_soda.html](http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/geo/ja/staff_soda.html)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

祖田亮次 (SODA, Ryoji)

大阪市立大学・大学院文学研究院・准教授  
研究者番号: 30325138